

教科	・児童の課題 ○重点目標	具体的な授業改善策
国語	- 漢字や言葉に関する理解が十分だとは言えない児童が多い。 - 自分の思いや考えを文章に表現することや説明することに苦手意識がある。 ○基礎的基本的な技能を伸ばし、自分の思いや考えをすすんで表現して伝える。	- 家庭学習「けてぶれ」を活用し、漢字10問テストを毎週実施する。その中で、自分の学びを振り返り、学びをアップデートする機会を設定する。 - 自分の思いや考えなどを文章に書き表す機会を多く設定する。タブレット端末でお互いの文章を共有したり、伝え合ったりする活動を設ける。 - 授業の中で、語彙に触れる時間を多く設定する。また、多様な表現に触れる機会を増やせるようにする。
算数	- 文章問題の要点の読み取りを苦手とする児童が多い。 - 図形の作図を正確に行えない児童がいる。 ○文章を正しく読み取れるようになるとともに、正しく立式ができるようになる。	- 文章問題では、要点に下線を入れたり、印をつけたりする作業を繰り返し行うことで、文章からの要点の読み取りの仕方を定着させていく。 - 図形の作図の際に、用具の使用方法的確認を都度行い、正確に作図を行えるように支援する。
理科	- 自然の事物や現象に興味や関心をもっている児童が多い。一方で、問題解決のための見通しを立てたり、実験や観察に対して苦手意識をもっている児童も多い。 - 自ら問題を見出し、追究していこうとする意欲が低い児童がいる。 ○日常生活の中から学習課題に結び付け、基礎的基本的な知識・技能を定着させる。	- ドリルパークやクイズを活用し、学習の振り返りや単元のまとめを行い、学習内容の定着を確認する。 - 児童が自ら問題意識をもてるよう、単元の導入を工夫し、興味関心を高める。 - 自由進度学習を取り入れ、興味関心に合わせて自分で計画から実験、結果、まとめ・考察までの活動をする時間を充実させる。
社会	- 資料から必要な情報を読み取ったり、グラフや表を文章と結び付けたりする力が十分とは言えない。 - 重要語句の理解や基本的な知識の定着が不十分である。 ○資料（教科書等）から必要な情報を読み取ったり、表やグラフと結び付けたりする力を身に付ける。	- 資料や教科書の見方の視点を明確にし、学級で共有しながら授業を進める。 - ドリルパークを活用し、単元のまとめや振り返りを定期的に行う。 - 話し合い活動を中心とした授業展開を工夫し協働的な学びを取り入れる。また、ICT 機器を活用し、社会的事象を多面的に捉えることができるようにする。
音楽	楽器の奏法を正しく身に付けているが、拍を感じ取って数えることが難しく、合奏では、正しく休符をカウントしたり音の長さを伸ばしたりする力が不十分である。 ○拍を感じ取り正しいリズムで演奏する力を身に付けさせることを重点目標とする。	- 音符や休符、記号と拍子などの楽典的事項への理解を深め、知識を定着させる。 - 階名唱をする際は、必ず音符や休符の長さを確認する。 - 拍に合わせて演奏できるようになるために、メトロノームを使って演奏したり、拍を数えながら演奏したりする。

図工	・材料や素材の特徴を捉えて、自分のイメージを広げ、意欲的に活動に取り組む児童が多い。 ・抽象的な表現に苦手意識がある児童がいる。 ・失敗を恐れ、力いっぱい体全体で表現することを躊躇する児童が見られる。 ○多様な表現方法に触れ、試行錯誤する時間を通して創造的に作ったり表したりする力を身に付ける。	・単元の導入で作品例や材料の扱いに触れ、イメージを具体的にもてるようにする。 ・ICT を効果的に活用し、活動の記録を残したり、友達の作品を見合ったりして、活動への意欲を高める。 ・作品鑑賞の時間を設定し、様々な表現方法に触れることで自分の見方や感じ方を広げる機会を設ける。
体育	・積極的に取り組む児童と苦手意識をもつ児童との差が大きい。 ・自分（チーム）の課題やめあてを基に、それに合う練習方法や場を設定することが苦手である。 ○課題解決に対して、個の学びや仲間との協同的な学びをする中で、様々な視点で学びを広げたり深めたりすることができる力を身に付ける。	・様々な運動に触れる機会を多く設定し、実態に合った練習方法や場の設定ができるようにする。 ・お互いのよい動きを賞賛することを意識させる。また、ICT 機器を活用し、視覚的に捉えられるように工夫する。
家庭	・調理実習は、どの児童も意欲的に活動をしている。家庭で経験している児童も多く、得意な児童が声をかけ合い不得意な児童へサポートする場面が多くあった。 ・裁縫実習も楽しく意欲的に取り組んでいるが、個人差が多く、基礎基本の技術定着を図っていく必要がある。 ○基礎的な知識や技能を身に付け、普段の生活において主体的に関わるとともにそれらを生かし、助け合いながら、生活を豊かにできるようにする。	・児童が意欲をもって取り組めるような場の設定をし、ICT 機器を活用して実際の動きを確認できるようにしていく。 ・基本的な技能が確実に身に付けられるように、「分からない、教えてほしい」が言いやすい環境作りをする。 ・保護者や他の教員等に協力を得ながら、個々のサポートができるように大人の数を確認していく。 ・安全面に留意して、技能の習得が円滑に進むようにする。

※ なお、各教科において、端末は対話的な学びや記録の蓄積等に常時生かすようにする。